

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000056		
法人名	柊野福祉会		
事業所名	グループホーム上桂(若葉ユニット)		
所在地	京都市西京区上桂北村町114番地		
自己評価作成日	令和5年4月6日	評価結果市町村受理日	令和5年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2694000056-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年5月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感を感じて頂けるような飾りつけを行い、家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるよう工夫している。重介護になってきているが、入居者様一人一人の状態に合った支援や生活リズムを目指し取り組んでいる。また、派遣職員が多い中ではあるが、正社員が中心となり、入居者様に対するケアの質が向上するよう指導している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人柊野福祉会は、京都市内に18の入所系・居宅系サービス事業を展開され、その傘下にある当事業所は、1階に小規模多機能型居宅介護事業所、3、4階に介護付き有料老人ホームを併設しています。2階の当事業所には、近隣地域からの入居者が多く、地域住民との交流も盛んで、散歩途中にも気軽に声をかけてもらえ、知人の来訪もあることが、入居者の楽しみでした。コロナ禍により、状況は一変しましたが、分散・縮小しながらも、初詣、近場の花見、夏祭り、クリスマス会などの行事をおこなっています。また、入居者アンケートを反映して、節分には入居者も参加しての手作り恵方巻、敬老祝賀会には出前の寿司、他にも鍋物やバーベキューを楽しみ、誕生日には手作りケーキで祝います。このところ面会も再開し、条件付きで自宅への外泊も可能となっています。新型コロナの動向を見ながら、今後は家族との散歩も可能となります。また、定期訪問診療以外に臨時的往診もあり、24時間の手厚い医療サポートが受けられることや、グループホームとしては珍しく各居室にトイレ・洗面所が備わっているというハード面の充実と相俟って、当事業所での最期を望まれる入居者や家族が多いのも特徴です。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人や事業所の理念・目標を掲示し、その目標が達成出来るように取り組んでいる。また、目のつく場所に掲示しどの職員でも意識して取り組めるよう心掛けている。	法人の理念はパンフレットやホームページで広く周知を図り、事業所理念は、職員間で毎年見直している。次々と変更をするより内容を深めることが大事との職員の意見で、昨年度に引き続き、「入居者様の思いや価値観を尊重し生活の主役となっていたく」と定め、事務所や職員トイレに貼り意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の桂川小学校と交流をしているが、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、訪問が出来なくなっている。かわりに小学生が作成した作品を一階に展示させて頂いている。	以前は桂川小学校の生徒に認知症の話をしに行くこともあったが、現在は直接の交流はなく、小学生に戴いた作品を1階のエレベーター横に展示し、入居者は散歩の行き帰りに見ている。町内会に加入し、回覧板から地域情報を得ている。コミュニティホールを自治会の集いに貸し出している。	1階事務所前にAEDがありますので、表の掲示板などを通じて地域の方にも知ってもらい、必要時に役立ててもらっては如何でしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域交流も目的に感謝祭を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い中止している。地域の方に認知症を理解して頂けるような取り組みは行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催していたが、現在は書面報告のみであり意見交流も出来ていない。	長く書面開催であったが、3月にやっと対面で会議をおこなうことができた。参加者は桂川社会福祉協議会会長、東上桂自治会会長、西京南部地域包括支援センター職員、上階の介護付き有料老人ホームや、当グループホーム職員が同席した。利用状況や事故報告、職員研修報告、参加者からの意見聴取などを行っている。議事録は会議関係者、家族には郵送し、西京区役所には郵送や手渡しで届けている。	ようやく対面開催となった会議では、利用状況や事故報告と分析、再発防止策などを示し、透明性の確保に留意されています。全般的に重い内容が多いので、個人情報に配慮しつつ、広報紙なども添え、行事などの情景も盛り込み、明るい話題やユニークな取り組みも伝えて、バランスの取れた情報開示をされては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や事故報告があれば、直接出向いて報告や相談を行っている。	行政とは新型コロナクラスター発生の折、連絡や届け出をして、コロナ抗原検査キットの申し込みなどもした。また、事故報告や、運営推進会議議事録を持参することもある。しかし、コロナ禍以降、リモート会議などには参加できていなかった。対面での会議があれば、徐々に参加する意向である。	

京都府 グループホーム上桂(若葉ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化マニュアルをもとに、研修を年2回実施。定期的に身体拘束になっていないか振り返りを行い、ケアの改善にも取り組んでいる。	管理者と計画作成担当者として、3か月ごとに身体拘束適正化委員会を開催している。センサーマットの検討などを行っているが、議題が限定的・形式的である。職員の不適切な対応に関しては年2回の研修で、ありがちな事例として検討したり、管理者がずっと注意を促すなどしている。帰宅願望の強い方はおられないが、出たいという方には職員と一緒に散歩に出ている。事業所玄関やエレベーターは施錠せず、1階玄関は、事務所に人がいない時は中から施錠している。	管理者と計画作成担当者などで開催している身体拘束適正化委員会は、やや形式的で、議事録も簡素です。議事録は全職員に回覧し、印鑑をもらっています。しかし、センサーマット以外にも多くの検討課題があり、派遣職員や新任の職員にも意識の浸透が求められます。初歩的な課題であっても度々再確認を促し、議事録にも具体的な検討内容を記載し、もう一歩踏み込んだ記録と職員への周知が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についても研修を実施。何かあればすぐに指導したり話し合いが出来るような機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所や法人において、権利擁護や青年後見人制度について研修を実施。過去にはご家族から相談もあり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書、入居契約書、入居の手引きを渡し、理解し納得した状態で入居して頂けるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に苦情受付ポスターを掲示している。毎年アンケートを実施しているが、定期的に電話等で連絡させて頂き、要望や意見等の確認を行っている。	入居者と家族別々にアンケートをとっている。入居者からは食べ物への要望が多く、食事に反映させている。また、行ってみたいところは、自宅、故郷、社寺の順になっている。家族からは面会への要望が多い。毎回同じ服なので、本人のこだわりと知りつつも、できたら違う服を着させてほしいなどの意見も出ている。自宅への外泊の要望があり、法人に確認し、ホームに帰る時に検査をするという条件のもとで、2名の入居者の外泊を実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施。職員と意見交換出来る場を設けている。以外にも定期的に職員一人一人と話が出来る場を設け、悩みが聞けるような環境作りを行っている。また、毎月管理者は事業所長会議に参加し、運営状況等を報告し、意見交換をしている。	管理者は普段から職員と話し、職員の意見を聞いている。子供の習い事の送迎のある曜日は遅出を入れないなどの勤務上の配慮もしている。派遣社員が半数以上を占め、慣れた頃に辞められるので、技術の積み上げや価値観の共有が難しく、正職員や固定したパート人材の増員を要望していると職員から聞き取った。法人の個人面談では異動希望や要望を伝える機会がある。	

京都府 グループホーム上桂(若葉ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課表により、事業所の目標に基づいて個人目標や評価等を管理する事で、給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内やグループホーム合同で課題別研修を行い、職員指導にも力を入れている。また、法人が主催している研修もあり、希望者は外部研修にも出来るだけ参加して頂けるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム合同で年3回合同研修の場を設けているが、感染症対策の為、合同での開催機会は減ってきている。今後は、リモート等を活用し、職員同士が交流出来る場を確保したい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、ご本人やご家族に希望・意向を確認し、必要な支援を把握する事で、日々のサービスが提供出来るよう心掛けている。また、日頃から信頼関係が構築出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居相談時、契約時に意向や要望を確認し、安心して入居して頂けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りをしっかりと行い、必要とされている支援が提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で生活して頂き、日頃からコミュニケーションを図り、穏やかに、笑顔が多く出るような生活を送って頂けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や電話連絡の際に近況報告を行っている。また、月1回写真付きでお手紙を送る事で、入居者様のご様子をお伝えする事が出来ている。		

京都府 グループホーム上桂(若葉ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会は出来ているが、外出や外泊は一定の条件をクリアしないと出来ないようになっている。一部の入居者様は外泊し、自宅に帰る事で、ご家族や知人と過ごしており、ご家族にも大変喜ばれている。	入居前に「生活等に関する確認書」に記載してもらい、長年の習慣や好みを把握するようにしている。毎月家族に写真と手紙で近況を知らせ、電話やリモート面会、直接の面会、条件付き外泊などで家族との交流を支援している。知人の面会もある。職員と一緒に料理や洗濯物干しをして持てる力の持続を図っている。馴染みの美容院に家族と行かれる方、訪問理・美容で毛染めやパーマをされる方もいる。カラオケに合わせて好きな歌を口ずさみ、季節の作品作りにも勤しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の人間関係を踏まえて座席を考えたり、お話が出来ない方には職員が関り支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、年賀状や近況報告をして頂けるご家族もおられる、必要に応じて介護相談も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族から生活歴等を確認し、職員間で情報共有をしている。また、日々のコミュニケーションの中で、ご本人の思いや希望を聞き取り、日々のケアに活かしている。	情報収集シートに本人の生活歴や現在の状況を詳しく記載し、それをもとに健康状態、身体機能、生活習慣、その人らしさなど15項目からなる課題整理総括表を作成している。本人の課題を把握するとともに、本人や家族の思いを尊重し、認知症対応型共同生活介護サービス計画書を作成している。特に入居直後は家族にもサービス担当者会議に参加してもらい、詳しく意向を聞いている。本人の思いは日頃から聞き取り、ケース記録や連絡ノートや会議で職員間で共有している。肉が食べたいとの意見を受けてバーベキューや焼き焼きをしている。家族の声が聞きたい時には電話を取次いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集シートを活用し、ご家族の協力を得ながら情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かあればケース記録に残し、職場間で情報を共有している。また、会議や情報交換ノートを活用し、入居者様の状態も把握している。		

京都府 グループホーム上桂(若葉ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議前に、ご本人やご家族に意向を聞き取り、なるべく希望に沿ったケアプラン原案を作成している。現在は、会議開催が電話での開催になっており、ケアプランの同意が得られれば、署名を頂き交付している。	本人、家族、介護職や医療関係者の意見を聞き、認知症対応型共同生活介護サービス計画書を原則1年ごとに作成している。状態変化があれば随時計画を変更し、家族の同意を得ている。計画には各専門職や、外泊や通院支援をする家族の役割も明記し、それぞれの支援内容が一目で分かるものとなっている。各職員は介護計画のどの項目を実践したか、毎日パソコン内に○△×で記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を出来るだけ詳しく記入するよう日々指導している。また、職員間での情報交換ノートを活用し、細かく伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から希望があれば、マッサージやリハビス等が利用出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物や散歩を通じて、地域と関りが持てるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を継続されるか確認を行い、選択して頂いている。かかりつけ医の往診は、月2～4回あり、緊急時は臨時往診も依頼出来る。また、希望があれば看取りも可能。病院とは、24時間連絡が取れるよう協力体制が構築されている。	臨時往診にも対応してくれる医師の定期訪問や、週1回の訪問看護師の来所がある。訪問歯科医の月1回の診察があり、必要時には診療の増回があり、歯科衛生士の口腔衛生指導も受けている。家族と一緒に従来のかかりつけ医に受診する方もある。希望者は訪問マッサージも受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務し、何かあれば報告・相談し、適切なアドバイスや看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、連絡を取り合い連携を図っている。病院でのカンファレンスは行えない為、電話での対応になっている。		

京都府 グループホーム上桂(若葉ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する聞き取りを行い、同意書を交わしている。しかし、実際看取り期になるとご家族の意向が変わることもある為、再度ご家族と主治医、管理者と会議を開催し、説明を行い同意書を交わしている。出来るだけ希望に沿った支援が出来るように心掛けている。	重度化及び看取りに関する指針を備え、介護職や医療関係者とも相談して、条件が合えば看取りが可能である。ターミナル研修もおこなっている。看取りを希望されていても、いざという時には医療機関に搬送され、そのまま亡くなる方や、病院で終末期を宣告されてホームに帰り、元気になられた方もいる。令和4年度は家族とともに1名看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、事故発生の対応については、定期的に確認し指導をしている。年1回救急講習を行っていたが、現在は中止している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している事業所と年2回消防署に協力して頂き、消防訓練を実施。備蓄に関しては、2階の倉庫に置いてあり、担当職員が期限や個数等を確認し把握している。	1～4階の事業所合同で、年2回の防火・防災訓練を利用者とともにおこなっている。うち1回は夜間想定でおこない、消防署の立ち合い・指導を受けている。通常の火災訓練に加え、風水害・地震訓練も交互に実施している。水、豚汁、アルファ米、レトルトパンなどの備蓄があり、オムツは各個人で多めにストックしている。ベランダに救助袋があり、消防署員が使用方法を指導している。1階の小規模多機能型居宅介護事業所は地域の方が利用されており、水害などの場合は2階への避難も念頭に、一緒に訓練をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や思いを尊重し、プライバシーが損なわれないよう声掛けし、関りを意識しながら日々のケアを行っている。	法令遵守、倫理、権利擁護の研修で入居者の尊厳について学んでいる。個々の職員にチェック表を渡し、自らを振り返る機会としている。入室時のノック・声掛け、トイレ介助時に扉を閉めるなどは、日頃から気を付けている。同姓の方が2名おられ、その方は苗字と名前で別々に呼ぶが、他の方は姓で呼ぶようにしている。職員による不適切な言動は管理者が注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関りやコミュニケーションの中から、ご本人の希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や思いを確認し、個々に合った暮らしが送れるように支援している。		

京都府 グループホーム上桂(若葉ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容院に来て頂き、希望者は散髪や毛染めを行っている。また、出来るだけご自身で衣類を選んで頂き、身だしなみにも気をつけながら日々の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ食事を手作りにするよう心掛けて提供している。また、入居者様の希望を聞きながら献立でも考えている。出来る方には調理も手伝って頂き、盛り付け等出来るだけ入居者様と参加して頂けるよう心掛けて食事作りをしている。	入居者の重度化により、朝晩は調理済みの冷凍ものを湯煎して使用し、ごはんや汁物は各階で作っている。朝は週2回はパン食であるが、希望により、パン食のみの方やご飯食のみの方がある。昼は入居者の意見を聞き、献立を一緒に考え、切る、炒める、盛り付けるなどのできる方は、職員と一緒に調理をしている。肉の希望が多く、たまにすき焼きやバーベキューも楽しむ。飲み物は熱いものか冷たいものか好みを聞いている。ココアやコーヒーは個人のもを提供している。おやつにはホットケーキミックスを利用したどら焼きや、寒天料理なども手作りして楽しむ。今後は移動販売車も利用し、選ぶ楽しみも味わってもらう予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量を把握したい方は、チェック表を作成し、細かく把握している。また、水分をあまり飲まない方には、好きな飲み物を把握し、提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし口腔ケアを実施。また、月1回は歯科医に往診に来て頂き、口腔内の状態を確認して頂き、必要なアドバイスや治療をして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のタイミングで介助を行うようにしている。また、重介護にはなっているが、出来るだけトイレ誘導し、トイレで排尿や排便出来るよう支援している。	日中はなるべくトイレでの排泄を支援し、排泄用品の汚染を抑えるようこまめに支援をしている。布パンツの方、予防のために紙パンツ使用の方を除き、殆どの方が介助を要する。昼は紙パンツで夜のみオムツの方もある。退院時はバルーン装着であったが、違和感があるのか体動が激しく、不眠も見られたので、医師と相談してトイレでの排泄を試み、バルーンが外せた例がある。本人も自信を取り戻し、意欲の向上が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく食事に野菜を多く取り入れたり、食物繊維の多い物を提供している。ご家族に相談し、個人でヤクルトやヨーグルトを購入し摂取されている方もおられる。		

京都府 グループホーム上桂(若葉ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入浴して頂いている。また、入浴日は基本決めず、出来るだけご本人の希望に沿って支援している。あまり入浴がお好きでない方に関しては、時間を空けて声掛けしたり、介助者を変更したり工夫をして入浴して頂いている。	入浴の曜日や回数は一応決めているが本人の希望で変更し、週3回希望される方には増回して対応している。柚子湯、しょうぶ湯、入浴剤などを使用し、希望により音楽のCDをかけるなどして、入浴を楽しめる様にしている。浴槽の手前が低くなり、出入りがしやすい構造になっている。シャワー浴希望の方には足が温まるように、足浴や浴槽に足だけを入れるなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本消灯時間は設けず、ご本人のタイミングで就寝されているが、年々早く休まれる方が増えている。寝具に関しては、リースだが、こだわりのある方には持参して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師に依頼し、薬の把握と管理をして頂いている。往診時にも来所され、薬の変更時には迅速に対応して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や趣味等、これまでの生活の中で馴染んで行ってこられた事は、意向を確認しながら継続して行って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者は毎日散歩に出掛けたり、ご家族の希望があれば、一定の条件さえ満たされれば外泊して頂いている。また、Line電話を活用し、ご家族が顔を見ながら話が出来よう支援も行っている。	毎日の散歩で近所の方に会えば、マスクごしに挨拶や軽い会話をしている。今後予約があれば、マスク装着、飲食なしで、家族と近場への散歩も可能である。御霊神社の初詣、花の時期には少し足を延ばして、小学校の隣の公園、上桂駅の花見、天神川沿いのドライブなどに行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族が管理されているが、管理が出来方は、1万円程の現金は財布に入れて管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおられるが、希望があれば電話を繋ぎ、ご家族と話が出来よう支援を行っている。		

京都府 グループホーム上桂(若葉ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう玄関やフロアの飾りつけを職員が率先して行っている。また、リビングの席は、入居者様の関係性を考え配置し、リビング以外にもソファを配置し、居心地の良い空間作りを行っている。	ユニット入り口には鯉のぼりの水彩画やアートフラワーなどが飾られている。室内リビングに入ると、ユニット名にちなみ、若葉に彩られた木々を描いた、大きなタペストリーが掛っている。壁面には利用者と制作した鯉のぼりが数点飾られ、季節を告げている。リビング中央に広めの対面キッチンがあり、角に丸みを帯びた2卓の大きなテーブルがある。入居者はここで食事やおやつ、レクリエーションや作品作りを楽しんでいる。椅子の高さ調節は足置きでおこなっている。室内は広くゆったりとして、大型テレビの前のテーブルとソファで寛ぐ姿も見られる。ソファ横のラックの上の数個の大きなぬいぐるみが癒しを演出している。西側の掃き出し窓からの陽光はカーテンで調節し、ベランダに出て洗濯物干しを手伝ったり、室内で洗濯物畳みを日課にされている方もある。空気清浄機を設置し、換気や掃除は職員がしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性も考慮し、席を用意したり思い思いに過ごせるよう居場所作りも考えながら行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、出来るだけ今まで使用されていた物を持参して頂き、環境が変わっても安心して過ごして頂けるよう心掛けながら支援している。	居室入口脇にはガラス製の表札が掛り、扉に好みの暖簾をかけ、室内が見えないようにしている。布団はリースであるが、持ち込みも可能である。居室にはトイレ、洗面台、事業所がレンタルしているベッド(入居者負担なし)、温度みまもり機能付きエアコンが備えられている。衣装ラックやチェストなど好みの家具を持ち込み、壁に家族写真を貼っている方、広報紙を何枚も貼っている方、好みの置物を置いている方など様々で、本人の暮らしやすい様にされている。住宅街の中に位置する事業所にもかかわらず、ゆったりした立地で、隣家との距離があり、各室内は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ、残存機能が活かせるような関りや工夫を行い、またバランスを崩しても何か持つ物があるような家具の配置を工夫している。		